

## 大津市瀬田南公民館自然観察講座 湖南アルプス自然休養の森植物探査

江南 和幸

湖南アルプス自然休養の森植物探査 2006年6月10日 参加者28人

6月の梅雨が心配される中、晴れ間の見える一日を、大津市と草津市の南に広がる自然休養林の植物探査を行った。上桐生からの竜王山へのハイキングコースをはずれ、林間を通り、湿地植物の生える落ヶ滝上までゆき、氷河時代名残のキンコウカ、また美しいカキランを観察して、今では住宅街になった、大津市、草津市郊外の少し奥にまだに残る自然にびっくりした楽しい観察会となった。龍谷の森里山保全の会で育てたシイタケを持参しての、おいしい味噌汁も出て初夏の一日、自然の恵みを眼と舌とで堪能した。

付：資料

大津市の南の端に、東海道線の車窓から見える禿山は、今ではその特異な岩の山肌から「湖南アルプス」とよばれ、都会からのハイキングの格好の場所を提供している。かつてはこの山一帯は鬱蒼とした森林に覆われていたと伝えられている。奈良時代からの大仏殿建設や、信楽の宮、大津京造成のため、瀬田川水系にごく近い森林資源としてそれらの森林は伐採され、禿山になり、山麓の田上の村落はその後度々の洪水に見舞われたという\*。「国家」による自然の収奪と放置の「反面教師」の見本のような山である。第2次大戦後のアカマツの植林や、大津市の小学校、中学の生徒たちによるヤシャブシ類の種まきにより2次林となり、今でもアカマツ林が残存する近畿地方でも残り少ないマツタケ山が経営される山地となっている。秋の3ヶ月間にこの中にうっかり入ると、マツタケ泥棒のあらぬ疑いを受けて難儀が待ち受けるが、春から夏にかけては、滋賀県

の中では、東海地区の植物と日本海側の植物とがともに生育する貴重な植物区となっている。

奈良時代に木材を切り出した関係からか、また信楽の宮との関係からからか、この地には古くから山岳仏教寺院が栄え、いまなおその痕跡をとどめ、磨崖佛がハイキングの楽しみを増してくれる。金勝山（コンゼヤマ）の名称のもとになった、金勝寺は東大寺の良弁（ロウベン）僧都が開基したことから、おくりなの金肅菩薩（キンショウボサツ）をとって、金勝の名がつけられたという（833年再興時）。

ハイキングコースの途中には、狛坂磨崖佛、茶沸観音や、重岩の線刻仏像などが今も残り登山者の安全を見守ってくれる。

さて今回は登山ではなく、森の姿を観察することに主眼を置き、近代の砂防工事手本となった、オランダ堰堤見学を皮切りに、自然休養の森一帯の散策を楽しむことにする。オランダ堰堤から谷道を緩やかに登り、逆さ観音の小公園を経てしばらくすると、行く手に突然第2名神高速道が現れる。田上の小・中学生たちが数十年にわたり植栽を続け、緑を取り戻した山が、いとも簡単に切り開かれた姿に愕然とする。それに対する申し訳のように、付近が公園として整備されて、確かに歩きやすくなっているが、胸をわくわくさせながら山道を分け入った以前のハイキングが無性に懐かしく思い起こされる。それでも、狛坂磨崖佛を経て金勝山に続く山道は、キンコウカやモウセンゴケの群落、コバノトンボソウなどの湿原の植物があちらこちらに生え、貧栄養化が逆に貴重な植物を残すという皮肉を見せてくれる。

名神道路のガード下をくぐらずに、左に登り休養の森コースに入れば、それはそれなりに、明るい樹林が迎えてくれる。以前の探索の折に、ヨタカが擬態を示して雛を守る光景に出くわし、この森に残る命のしたたかさに改めて驚いたものである。

以下5年ほど前の6月の探索の際に書き留めた金勝山一帯の植物のリストを示そう。

この中でどれだけが休養の森に生えているかは探索のお楽しみとしたい。

\* 明治14年刊の「改正滋賀県管内地理書」には、近江国の河川の状態として次のような記述がある。  
「勢田川ノ外大小数十川アリ其大ナルモノヲ横田川（注：野洲川上流を昔はこう呼んでいた）、日野川、愛知川、犬上川、姉川、高時川、安曇川、比良川トス而シテ東南ノ諸川は概ネ平日乾涸一滴ノ水ナキモノアリ然レドモ一旦暴雨至レバ水流忽チ漲リ家畜ヲ灑盡シ（洗いつくし）田畑ヲ荒暴ス南部ノ諸山多ク赤緒（あかつちだらけ）ニシテ樹木少ナキヲ以テナリ」。

上桐生—竜王山一帯の植物の概要(50音順)

アオキ、  
アオダモ (マルバアオダモ)、  
アオツツラフジ、  
アオハダ、  
アカソ、  
アカマツ、  
アカメガシワ、  
アキノキリンソウ  
アケビ、  
アセビ、  
アクシバ  
アラカシ、  
アリノトウグサ、  
イシモチソウ、  
イソノキ、  
イタチハギ (クロバナエンジュ)  
イタドリ、  
イチャクソウ、  
イヌエンジュ  
イヌツゲ  
イノコヅチ  
イワナシ  
ウワミズザクラ、  
ウスノキ (カクミノスノキ)、  
ウツギ  
ウツボグサ、  
ウメモドキ、  
ウラジロ、  
ウラジロノキ、  
ウリカエデ、  
エゴノキ、  
エノキ、  
オオイワカガミ、  
オオバヤシャブシ、  
オトギリソウ、  
オニドコロ  
オヘビイチゴ  
イヌザンショウ  
  
カキドウシ、  
カキラン、  
カタバミ、  
カナビキソウ、  
カナメモチ、  
カラスザンショウ、  
カラムシ、  
カワラハンノキ、  
ガンピ、  
キクバヤマボクチ、  
キジノオシダ、  
キッコウハグマ、  
キブシ、  
キリ (ヤマギリ)  
キンコウカ、  
キンミズヒキ、  
クサイチゴ、  
クサギ  
クズ、  
クヌギ、  
クロモジ、  
ケヤキ、  
コアジサイ  
コウソ、  
コウゾリナ、  
コウヤボウキ  
コガンピ、  
コケオトギリ、  
コシアブラ、

コシダ  
コツクバネウツギ、  
コナラ、  
コナスビ、  
コバノガマズミ、  
コバノトンボソウ、  
コバノミツバツツジ、  
コマツナギ、

サカキ、  
ササユリ、  
サルトリイバラ、  
サンカクヅル、  
サンゴジュ (植栽?)、  
シキミ、  
シシガシラ、  
シャシャンボ、  
シハイスミレ、  
ショウジョウバカマ  
スイカツラ、  
スギ、  
ススキ  
スノキ、  
セリ  
セイトカアワダチソウ、  
ソヨゴ

コモウセンゴケ、

タカオモミジ、  
タカノツメ、  
タニウツギ、  
タムシバ、  
タラノキ、  
チヂミザサ、

チチコグサ、  
ツクバネガシ、  
ツタ、  
ツルアリドウシ、  
ツルニンジン  
テイカカツラ、  
テリハノイバラ、  
トウバナ、  
ドクダミ、

ナガバモミジイチゴ、  
ナツハゼ、  
ナツフジ、  
ナワシロイチゴ、  
ニガイチゴ、  
ニガナ、  
ニセアカシア、  
ヌスビトハギ、  
ヌルデ、  
ネザサ、  
ネジキ、  
ネズノキ  
ネズミモチ  
ネムノキ  
ノアザミ、  
ノギラン、  
ノハナショウブ、  
ノリウツギ

ハチク、  
ハナニガナ、  
ハナノキ、  
ハンノキ  
ヒイラギ、  
ヒサカキ

ピナンカツラ  
ヒノキ、  
ヒメコマツ、  
ヒメシヤラ、  
ヒメジョオン、  
ヒメヤシャブシ、  
ヒメヤブラン、  
ヒヨドリジョウゴ、  
ヒヨドリバナ、  
フジ、  
ヘクソカズラ  
ベニシダ  
ヘビイチゴ  
ヘビノボラス、  
ホオノキ、  
ホツツジ  
  
マダケ、  
マタタビ  
ママコナ、  
ミツバ、  
ミツバアケビ  
ミミカキグサ、  
ミヤコイバラ  
ミヤコツツジ、  
ミヤマウツラ、  
ミヤマカタバミ  
ムクノキ、  
ムシカリ (オオカメノキ)、  
ムベ、  
ムラサキシキブ  
メヤブマオウ、  
モウセンゴケ、  
モチツツジ

ヤダケ、  
ヤチスギラン、  
ヤツデ、  
ヤブカンゾウ、  
ヤブコウジ  
ヤブツバキ、  
ヤブマオ、  
ヤブラン  
ヤマウルシ、  
ヤマガキ、  
ヤマグワ、  
ヤマザクラ、  
ヤマツツジ、  
ヤマナラシ、  
ヤマノイモ、  
ヤマモモ、  
ヤマハギ、  
ヤマハゼ、  
ヤマハンノキ、  
ヨウシュヤマゴボウ、  
ヨモギ、  
  
リョウブ